

茨城港長期構想策定の経緯と進め方

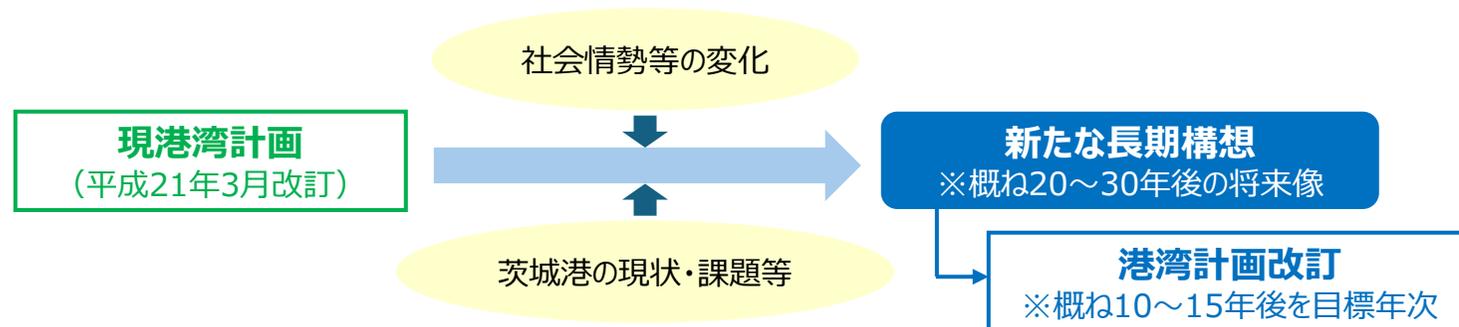
1. 長期構想検討委員会

○背景

- 茨城港の現港湾計画（平成21年3月改訂）は、「茨城県港湾戦略ビジョン～首都圏NEWゲートウェイを目指して～（平成19年12月）」、「茨城県北3港港湾計画策定検討委員会（平成21年2月）」を受け、**従来の日立港、常陸那珂港、大洗港の3港が統合港湾として一体となり**、首都圏の経済活動、とりわけ北関東地域の経済・交流活動を支援すると同時に、東京湾岸地域の港湾物流機能等補完するため、また、経済活動と豊かな自然環境が調和し、3港が一体となった魅力ある「みなとまち」を形成するため、**平成30年代前半を目標年次として計画**されたものである。
- 平成21年3月の港湾計画改訂以降、港湾や道路などの輸送ネットワークの整備が進み、新たな民間投資や企業の生産拡大が進んだ一方、新型コロナウイルス感染症の拡大やロシア・ウクライナ問題などにより、サプライチェーン分断など大きな打撃を受けている。
- また、世界の産業構造は、2050年カーボンニュートラルの実現、A I・I o Tなどを含むD Xの推進、働き方改革に伴う時間外労働の上限規制に起因したモーダルシフトの動きが進展しつつあり、**港湾を取り巻く情勢が変化**してきている。
- このような状況変化等を踏まえ、**茨城港において、概ね10～15年後を目標年次とする港湾計画を改訂する予定**であり、その改訂を念頭に、**概ね20～30年後を見据えた茨城港の将来像の議論・検討**を行い、**新たな長期構想を策定**するものである。

○委員会の目的

- 茨城港に対する諸要請と、今後茨城港が果たすべき役割などを踏まえ、長期的視点にたった茨城港の将来像やその実現に向けた取組の方向性を検討し、茨城港の長期構想を策定する。



2. 長期構想策定の流れ

